

参考資料1

「九州地域教育ファーム推進協議会」委員プロフィール

(50音順記載)

○有菌 幸司（ありぞの こうじ）氏（熊本県）

熊本県立大学環境共生学部教授(平成11年4月より)

専門分野は、食環境安全性学、衛生化学、環境毒性学、食のリスクコミュニケーションなど。

「くまもと食の安全・食育推進県民会議」会長。

○石本 勉（いしもと つとむ）氏（福岡県）

福岡県八女市立矢部小学校校長

鹿児島大学教育学部卒業後、大口市農協に就職。5年間の農協勤務後、福岡県にて教員となる。平成14年から3年間、福岡県八女郡立花町立上辺春小学校校長になり、「みそこし応援団」を立ち上げる。

平成19年現在の小学校に勤務し、「みそこし学習」と「みそこし応援団」の考え方を発展的に捉え直しながら食育の研究を教職員と共に進めている。

※みそこし応援団とは、人の歴史は、食べ物を「みつける」ことから始まり、次第に農作物や家畜を「そだてる」ようになり、その過程で調理加工して「こしらえる」技を磨き、礼儀や作法にのっとって「しよくする」文化を根づかせてきたことから、これらのキーワードの頭文字をとって「みそこし」と命名する。

○井上 一夫（いのうえ かずお）氏（佐賀県）

小鳩の家保育園園長

平成17年度「佐賀県食育推進委員会の委員として、佐賀県食育推進計画の策定に携わる。平成19年度「武雄市食育推進調査会議」の委員として、武雄市食育推進計画の策定に携わる。

平成21年度さが“食と農”絆作りプロジェクト「食農教育推進チーム」のメンバー。

「全国地域づくり団体研修交流会佐賀大会」武雄分科会実行委員会の委員。

「佐賀水ネット」代表。

○岩田 慎治（いわた しんじ）氏（福岡県）

日本生活協同組合連合会九州地連事務局長

九州地連は九州地区の日本生協連の支部として会員生協の事業や諸活動の交流・連絡・調整を中心に行っている。九州地区には日本生協連の会員として59会員生協が加入し、そこに加入する組合員総数は260万人。

日本生協連では会員生協との取組として、「たべるたいせつ」を原点とした食育活動、くらしの中から広げる環境保全活動などがある。

○上村 和也（うえむら かずや）氏（熊本県）

(株)丸美屋事業推進本部推進室主席

(株)丸美屋は昭和31年創立。納豆・豆腐・その他食品の製造販売。

「大豆100粒運動」を平成20年度より取組む。行政、JA、農家、老人会などと連携をして、学童が掌一杯、約100粒の大豆を蒔き、その生育を観察・記録し、収穫を行い、学校で豆腐作り・納豆作りを行い、みんなで食べることを目的にした教育ファームの取組を行っている。

○奥 誠司（おく せいじ）氏（宮崎県）

（有）シードカルチャー取締役、平成17年より綾町有機農業実践振興会理事。

宮崎県綾町で、農薬や化学肥料を使わない自然生態系農業により多品目野菜と米の栽培。

種をまく事と収穫する事を基本に食の大切さと農業の奥深さを考えて体験し、自分たちで作ったものを自分たちで食べる事でより一層の理解を深めてもらい、「いのち」の大切さと「食」の大事さをメッセージとして伝える農業体験を展開している。

○住田 実（すみた みのる）氏（大分県）

大分大学教育福祉科学部(健康教育学)教授

21年度教育ファームモデル事業採択団体代表者

「日本棚田百選・余谷地区農家と未来の教師(大学生)の教育ファーム」として、小・中学生と未来の教師になる大分大学の学生による農業体験活動を積極的に実践している。

○千葉 しのぶ（ちば しのぶ）氏（鹿児島県）

「NPO法人霧島食育研究会」代表、霧島市食育推進計画策定委員。

総合病院勤務(病態栄養管理業務)を経て、現在、管理栄養士、田舎料理のフードコーディネーター、棚田食育士として活躍。栄養の観点からでなく、地域づくり、農作業体験、郷土料理伝承など幅広い食育活動を行う管理栄養士。

表彰：「NPO法人霧島食育研究会」として、平成16年地域に根ざした食育コンクール2005優良賞受賞、平成18年度読売教育賞社会教育活動部門最優秀賞受賞、平成18年度あしたのまち暮らしづくり活動賞食育推進部門内閣総理大臣賞受賞。

○中尾 慶子（なかお けいこ）氏（長崎県）

聖和女子学院高校物理教諭、「大地といのちの会」理事、佐世保市環境アドバイザー、長崎県環境アドバイザー。

食を見つめることは「命」・「未来」を見つめることにつながると感じ、食育活動展開中。

表彰：「大地といのちの会」として、平成18年度地域づくり総務大臣表彰受賞

○西富 大二郎（にしとみ だいじろう）氏（熊本県）

九州地区農協青年組織連絡協議会委員、熊本県農協青壮年部協議会委員長

九州地区農協青年組織連絡協議会の活動としては、学童農園などを通じた食農教育活動及び「地産地消」や「安全・安心」などを掲げた食に関する消費者理解活動を展開している。

○矢野目 真弓（やのめ まゆみ）氏（大分県）

大分県地域婦人団体連合会会長

平成17年6月より会長に就任し、現在に至る。

教育・環境・食・福祉健康の各分野において地域婦人会が時代の要請に応えるための学習に取り組んでいる。そのなかに食の安全を守るため、食育を推進し、地産地消・スローフード運動にも取り組んでいる消費者団体である。

○山口 達也（やまぐち たつや）氏（熊本県）

熊本日日新聞社玉名総局局長

くまもと食の安全・食育推進県民会議の構成員。

平成18年7月に南阿蘇村で「農畜産物 安心をつなぐには」をテーマに開催された公開討論会（潮谷知事、俳優の永島敏行氏、南阿蘇村長、JA阿蘇組合長など参加）において、コーディネーターを務める。